

令和 4 年度 政務活動費支出整理簿

会派名 きずなクラブ

氏名 冷水 保

項目	研修費		支出内容
費目	旅費		
整理番号	月 日	支出額 (円)	
1	5 / 24	28,920	国立研究開発法人海洋研究開発機構への表敬訪問及び勉強会 旅費 (東京都千代田区) (日程、場所等は調査視察等届出書等に記載)
1-1	0 / 0	0	JR乗車券・特急券 八戸⇄東京 28,920円
2	8 / 5	127,250	令和4年度「我が国の海洋研究を推進する市議会議員連盟」研修会・海洋都市横浜うみ博 2022視察 旅費・宿泊費 (神奈川県横浜市) (日程、場所等は調査視察等届出書等に記載)
2-1	0 / 0	0	JR乗車券・特急券 本八戸⇄桜木町 29,200円 横浜市宿泊代 11,350円
2-2	0 / 0	0	JR乗車券・特急券 本八戸⇄桜木町 32,000円 横浜市宿泊代 11,350円
2-3	0 / 0	0	JR乗車券・特急券 本八戸⇄桜木町 32,000円 横浜市宿泊代 11,350円
3	10 / 18	27,270	函館国際水産・海洋都市構想について 旅費・宿泊費 (北海道函館市) (日程、場所等は調査視察等届出書等に記載)
3-1	0 / 0	0	JR乗車券・特急券 本八戸⇄函館 16,200円 函館市宿泊代 11,070円
4	1 / 26	77,440	「我が国の海洋研究を推進する市議会議員連盟」勉強会 (東京都港区他) (日程、場所等は調査視察等届出書等に記載)
4-1	0 / 0	0	JR乗車券・特急券 本八戸⇄東京 28,920円 東京都宿泊代 13,410円
4-2	0 / 0	0	JR乗車券・特急券 本八戸⇄東京 21,700円 東京都宿泊代 13,410円
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
小計		260,880	備考
合計		260,880	

※案分による支出の場合は、案分率等を支出内容欄に記入してください。

第3号様式（第6条、第8条関係）

令和4年5月2日

会派名 きずなクラブ  
代表者名 五戸定博様

氏名 五戸定博



### 調査視察等届出書

八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により、次のとおり届出します。

- 1 旅行者 五戸定博議員
- 2 期間 令和4年5月24日(火)
- 3 場所 東京都千代田区
- 4 目的及び内容 国立研究開発法人海洋研究開発機構への表敬訪問及び勉強会
- 5 支出可能額（上限額） 41,360円  
【内訳は、旅費額計算書（第4号様式）に記載のとおり】

第4号様式 (第6条、第8条関係)

旅 費 額 計 算 書

旅 行 日 程				旅 費 計 算 の 基 礎					
行	日	出発	到着	区 分	基 数	単 価	金 額	備 考	
行	5/24	八戸駅発	8:11	早見表					
き	5/24	東京駅着	11:04						
帰	5/24	東京駅発	15:20						
	り	5/24	八戸駅着						19:08
経路・滞在地  8:11 八戸駅発(はやぶさ10) 11:04 東京駅着  13:00~14:30 国立研究開発法人海洋研究開発機構への表敬訪問及び勉強会 会場：国立研究開発法人海洋研究開発機構 東京事務所 (東京都千代田区内幸町2丁目2番2号 富国生命ビル23階)  15:20 東京駅発(はやぶさ253) 19:08 八戸駅着				鉄道運賃		631.9k	9,790	17,620	八戸⇄東京 (往復割引)
				急行料金		2	6,270	12,540	八戸⇄東京 631.9k
				特別車両料金		2	5,600	11,200	八戸⇄東京 631.9k
				航空運賃					
				バス運賃					
				宿泊料					
				旅行雑費					
小 計							41,360		
合 計 (小計×人数)							41,360	1人	

令和4年5月31日

会派名 きずなクラブ  
代表者名 五戸定博様

氏名 五戸定博



### 調査視察等報告書

令和4年5月2日付けで届出した調査視察等を実施したので、八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により次のとおり報告します。

1 旅行者 五戸定博議員

2 期間 令和4年5月24日(火)

3 場所 東京都千代田区

4 行程 別紙のとおり

5 支出額 28,920円

6 概要 別紙のとおり

## 令和4年5月24日 五戸議員 視察行程（政務活動）

5月24日 (火)	<b>行き</b>	八 戸	JR はやぶさ10	東 京	JR山手線 品川方面	新 橋	表敬訪問 / 勉強会 13:00 14:30
	8:11	(173分)	11:04 11:18	(4分)	11:22	1.9km	【補足】 新橋⇄JAMSTEC東京事務所間は 徒歩で8分程度
	<b>帰り</b>	新 橋	JR山手線 東京方面	東 京	JR はやぶさ253	八 戸	
		15:04	(5分)	15:09 15:20	(228分)	19:08	
			1.9km		631.9km		

### 国立研究開発法人海洋研究開発機構【表敬訪問、勉強会】

- ①時間：表敬訪問 13時～13時30分（15分前に1階ロビー集合）  
勉強会 13時30分～14時30分
- ②会場：JAMSTEC東京事務所  
東京都千代田区内幸町2丁目2番2号  
富国生命ビル23階

領 収 書 等 貼 付 用 紙

項目	研修費	費目	旅費	整理番号	/ - /
領収書等貼付欄					

5.24日 国定

領 収 証

2022年 5月16日

五戸 定博 様

金28,920円

ただし、乗車券類代  
(クレジットカードによるご利用分)として、上記金額を受領しました。

印 紙 税 申 告 納
付 に つ き 渋谷
税 務 署 承 認 済

本領収証は時間がたつと文字が薄くなる場合がありますので、  
長期間保存する場合はコピーをお取り下さい。

東日本旅客鉄道株式会社  
本八戸802 No.000003



※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

## 勉強会報告書

- 1 訪問先 国立研究開発法人海洋研究開発機構 東京事務所
- 2 日時 令和4年5月24日(火) 13:00~14:30
- 3 対応者 国立研究開発法人海洋研究開発機構  
理事長 大和 裕幸 様  
理事 森本 浩一 様  
審議役 菊池 聰 様

### 4 内 容 最近の海洋研究開発機構の動向等について

- (1) JAMSTEC海洋、地球、生命、人類の総合的理解の推進と、社会との協創による地球の未来の想像を達成するための動向の説明があった。(資料1)
- (2) 北極域研究船の建造についてJAMSTECは、北極域研究船の円滑建造を進め、国際連携のもと研究活動を推進し、北極域の持続可能な開発利用・保全の実現に貢献していく等の説明があった。(資料2)
- (3) 福徳岡の場の噴火と海流による影響については、2021年8月13日、小笠原諸島の福徳岡の場で噴出した軽石の漂流予測を行い、宇宙航空研究開発機構JAXAの衛星「しきさい」から得られた軽石解析レポートで軽石があると判定された領域に、軽石と見立てた粒子をばらまき、その後の動きを追跡している等の説明があった。(資料3)

### 5 所 感

最近の海洋研究開発機構の動向について、資料2の北極域研究は世界の物流のあり方にも重要なことだと認識し、世界平和のためにも頑張っていたきたいと思うところである。北極域研究船は完成まであと5年ということ伺い、可能であれば青森県八戸市を母港にと考えていきたい。資料3の小笠原諸島硫黄島の南方に位置する「福徳岡の場」での大規模な噴火により日本国内に軽石が漂流する予測をJAMSTECが行っていたことに改めて敬意を表したい。



国立研究開発法人 海洋研究開発機構

理事長

工学博士 大 和 裕 幸

横須賀本部  
〒237-0061 神奈川県横須賀市夏島町2番地15  
電話 (046) 867-9000番(秘書室)  
FAX (046) 867-9005番  
E-mail: yamato@jamstec.go.jp  
URL: http://www.jamstec.go.jp/

この名刺は再生紙を使用しています。



国立研究開発法人 海洋研究開発機構

審議役



菊 池 聰

横浜研究所  
〒236-0001  
神奈川県横浜市金沢区昭和町3173番25  
電話 (045) 778-5306番(直通)  
FAX (045) 778-5498番  
E-mail: kikuchis@jamstec.go.jp  
URL: http://www.jamstec.go.jp/

東京事務所  
〒100-0011  
東京都千代田区内幸町2丁目2番2号  
(富国生命ビル23階)  
電話 (03) 5157-3900番(直通)  
FAX (03) 5157-3903番

この名刺は再生紙を使用しています。



第3号様式 (第6条、第8条関係)

令和4年7月12日

会派名 きずなクラブ  
代表者名 五戸定博様

氏名 五戸定博  
高橋貴之  
吉田洸龍



### 調査視察等届出書

八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により、次のとおり届出します。

- 1 旅行者 五戸定博議員 高橋貴之議員  
吉田洸龍議員
- 2 期間 令和4年8月5日(金)～令和4年8月6日(土)
- 3 場所 神奈川県横浜市
- 4 目的及び内容 令和4年度「我が国の海洋研究を推進する市議会議員連盟」研修会・海洋都市横浜うみ博 2022 視察
- 5 支出可能額 (上限額) 166,920円  
【内訳は、旅費額計算書(第4号様式)に記載のとおり】

旅 費 額 計 算 書

旅 行 日 程			旅 費 計 算 の 基 礎					
行	日	時刻	区 分	基 数	単 価	金 額	備 考	
行	8/5	本八戸駅発 9:50	早見表					
	8/5	桜木町駅着 13:58						
帰	8/6	桜木町駅発 12:19						
	8/6	本八戸駅着 16:30						
経路・滞在地  別紙のとおり			鉄道運賃	666.8k	10,010	18,000	本八戸⇄桜木町 (往復割引)	
			急行料金	特	2	6,270	12,540	八戸⇄東京 631.9k
				急				
			特別車両料金		2	5,600	11,200	八戸⇄東京 631.9k
			航空運賃					
			バス運賃					
			宿泊料		1	13,900	13,900	8/5 横浜市泊
			旅行雑費					
			小 計					
合 計 (小計×人数)						166,920	3人	

令和4年度「我が国の海洋研究を推進する市議会議員連盟」研修会等 行程

- ・ 日 程：令和4年8月5日（金）～6日（土）
- ・ 場 所：神奈川県横浜市

月 日	行 程	宿泊地
8月5日 (金)	<p>9:50発 本八戸 → (八戸線) → 9:59着/10:17発 八戸 → (はやぶさ16号) → 13:04着/13:15発 東京 → (JR京浜東北・根岸線)</p> <p>→ 13:58着 桜木町 → (徒歩) → 14:10着/15:00～17:15 横浜市会議事堂 (研修会)</p>	横浜 市内泊
8月6日 (土)	<p>10:00～12:00 横浜市役所 → (徒歩) → 12:15着/12:19発 桜木町 → (JR京浜東北・根岸線) (海洋都市横浜うみ博 2022視察)</p> <p>13:01着/13:20発 → 東京 → (はやぶさ25号) → 16:13着/16:22発 八戸 → (八戸線) → 16:30着 本八戸</p>	

令和4年9月1日

会派名 きずなクラブ  
代表者名 五戸定博様

氏名 五戸定博  
高橋貴之  
吉田洸龍



### 調査視察等報告書

令和4年7月12日付けで届出した調査視察等を実施したので、八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により次のとおり報告します。

- 1 旅行者 五戸定博議員 高橋貴之議員  
吉田洸龍議員
- 2 期間 令和4年8月5日(金)～令和4年8月6日(土)
- 3 場所 神奈川県横浜市
- 4 行程 8月5日 本八戸～JR～桜木町  
8月6日 桜木町～JR～本八戸
- 5 支出額 127,250円
- 6 概要 別紙のとおり

領収書等貼付用紙

項目	研修費	費目	旅費	整理番号	2-1
領収書等貼付欄					

領 収 証

2022年 7月13日

五戸定博様

金29,200円

ただし、乗車券類代  
(クレジットカードによるご利用分)として、上記金額を受領しました。

印紙税申告納  
付につき渋谷  
税務署承認済

本領収証は時間がたつと文字が薄くなる場合がありますので、  
長期間保存する場合はコピーをお取り下さい。


東日本旅客鉄道株式会社  
本八戸802 No.000007

8/5 ~ 8/6

研修費

※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

領 収 書 等 貼 付 用 紙

項目	研修費	費目	旅費	整理番号	2-1								
領収書等貼付欄													
<p><b>WHG</b>    <b>横浜 桜木町ワシントンホテル</b>  <small>HOTELS</small> TEL : 045-683-3111                      〒231-0062 神奈川県横浜市中区桜木町1-101-1</p> <hr/> <p>BILL-No.080501252213      2022/08/05 17:51</p> <p style="text-align: center;"><b>領収証</b></p> <p>お名前: ジョハ サトウ 様</p> <hr/> <table border="0"> <tr> <td>お部屋番号</td> <td>:1086</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>:1</td> </tr> <tr> <td>到着</td> <td>:2022/08/05</td> </tr> <tr> <td>出発</td> <td>:2022/08/06</td> </tr> </table> <hr/> <p><b>金額</b>      ¥11,350-                      (内 消費税等: 1,031)                      (内 宿泊税: 0)</p> <p>但し      ご宿泊代として</p> <hr/> <p>上記金額正に領収致しました。</p> <p><i>ジョハサトウ</i>      <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">印紙税申告納 付につき横浜中 税務署承認済</span></p> <p>発行 No.:                      IN 080501252213 P 1 1 1 A PA AL                      22/08/05 17:51 202110003S</p>						お部屋番号	:1086	人数	:1	到着	:2022/08/05	出発	:2022/08/06
お部屋番号	:1086												
人数	:1												
到着	:2022/08/05												
出発	:2022/08/06												

※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

領 収 書 等 貼 付 用 紙

項 目	研修費	費 目	旅費	整理番号	2-2
領 収 書 等 貼 付 欄					

領 収 証

2022年 7月26日

高橋 勲 様

金32,000円

ただし、乗車券類代  
として、上記金額を受領しました。

印 紙 税 申 告 納
付 に つ き 渋谷
税 務 署 承 認 済

本領収証は時間がたつと文字が薄くなる場合がありますので、  
長期間保存する場合はコピーをお取り下さい。

東日本旅客鉄道株式会社  
本八戸801 No.000011



※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

領 収 書 等 貼 付 用 紙

項目	研修費	費目	旅費	整理番号	2-2
領収書等貼付欄					
<p data-bbox="220 658 758 705"><b>WHotel   横浜 桜木町ワシントンホテル</b></p> <p data-bbox="515 703 735 734">TEL: 045-683-3111</p> <p data-bbox="225 728 761 763">〒231-0062 神奈川県横浜市中区桜木町1-101-1</p> <hr/> <p data-bbox="213 831 464 866">BILL-No.080502243713</p> <p data-bbox="553 853 764 887">2022/08/05 17:48</p> <p data-bbox="448 884 533 940"><b>領収証</b></p> <p data-bbox="229 956 517 992">お名前: 加藤 加子 様</p> <hr/> <p data-bbox="256 1008 683 1115">       お部屋番号 : 1054        ご人数 : 1        ご到着 : 2022/08/05        ご出発 : 2022/08/06     </p> <hr/> <p data-bbox="217 1135 764 1240"> <b>金額</b> ¥11,350-        (内消費税等: 1,031)        (内宿泊税: 0)     </p> <p data-bbox="217 1236 501 1290">但し ご注意として</p> <hr/> <p data-bbox="217 1305 568 1341">上記金額正に領収致しました。</p> <div data-bbox="496 1370 753 1503" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">       印紙税申告納        付につき横浜中        税務署承認済     </div> <p data-bbox="217 1512 670 1592">       発行 No.:        IN 080502243713 P 1 1 2 A PA AL        22/08/05 17:48 201510640K     </p>					

※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。



領収書等貼付用紙

項目	研修費	費目	旅費	整理番号	2-3
領収書等貼付欄					

領 収 証

2022年 8月 5日

吉田 光龍 様

金32,000円

ただし、乗車券類代  
として、上記金額を受領しました。

本領収証は時間がたつと文字が薄くなる場合がありますので、  
長期間保存する場合はコピーをお取り下さい。

印紙税申告納
付につき渋谷
税務署承認済

東日本旅客鉄道株式会社  
八戸802 No.000018



※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

領 収 書 等 貼 付 用 紙

項目	研修費	費目	旅費	整理番号	2-3
領 収 書 等 貼 付 欄					
<p> <b>wHg</b>   <b>横浜 桜木町ワシントンホテル</b>  <small>HOTELS</small> TEL : 045-683-3111                      〒231-0062 神奈川県横浜市中区桜木町1-101-1                 </p> <hr/> <p>                     BILL-No.080501252212      2022/08/05 17:48  <b>領収証</b> </p> <p>                     お名前: ミサタ コウリュウ 様                 </p> <hr/> <p>                     お部屋番号 : 1053                      ご人数 : 1                      ご到着 : 2022/08/05                      ご出発 : 2022/08/06                 </p> <hr/> <p> <b>金額</b>      ¥11,350-                      (内 消費税等: 1,031)                      (内 宿泊税: 0)                 </p> <p>                     但し      ご宿泊代として                 </p> <hr/> <p>                     上記金額正に領収致しました。                 </p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>                             印紙税申告納                              付につき横浜中                              税務署承認済                         </p> </div> <p>                     発行 No.:                      IN 080501252212 P 1 1 1 A PA AL                      22/08/05 17:48 202110003S                 </p>					

※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

## 研修報告書

1 日 時 令和4年8月5日(金) 午後3時～午後5時15分

2 場 所 神奈川県横浜市 横浜市会議事堂3階多目的室

### 3 研修会

(1) 基調講演 演題:「自治体との連携で加速する海洋ごみ研究  
～海ごみAIを事例に～」

講師: 国立研究開発法人海洋研究開発機構

付加価値情報創生部門

地域情報科学技術センター

データサイエンス研究グループ研究員 博士

日高 弥子 氏

(2) 活動報告 発表団体: 八戸市水産科学館マリエント

「ちきゅう」たんけんクラブ

### 4 参加議員

五戸 定博、寺地 則行、高橋 貴之、吉田 洸龍

※議長公務

### 5 研修目的

我が国の海洋地球科学研究開発の成果について関係機関に働きかけ、海洋地球科学の水準の向上及び当市を含めた加盟市の発展をはかるために設置された「我が国の海洋研究を推進する市議会議員連盟」の事業の一環として開催される研修会に参加し、情報の収集と理解を深め、当市の新たな事業展開の推進に資することを目的とする。

### 6 研修内容

(1) 海洋研究開発機構データサイエンス研究グループの日高 弥子氏より基調講演があった。

国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)は、海・地球にまつわる様々な研究開発課題に取り組んでおり、海洋ごみ問題では主にプラスチックごみの調査と代替の新素材の研究、技術の研究・開発、データとの連携によるビッグデータの活用、データサイエンスの流れとしてAI技術の活用で海洋生物などの多様な研究があげられる。

近年、海岸の漂着ごみの清掃コストに自治体が頭を痛めており、海洋プラスチック汚染が海洋生物や人類にとっても悪影響を及ぼすことが問題となってい

る。海岸ごみの70~80%は陸で生まれた川などからやってくる生活ごみ等で、20~30%は海で生まれた養殖などを含む漁業ごみなどが原因である。

プラスチックごみの5%が海岸へ打ち上げられ太陽で劣化し、マイクロプラスチックとなり二度と回収できなくなる。

台風のあとは海岸ごみが増えるが何時間後なのか、何日後に増えるのかを調べる意味はある。海岸ごみを調べる意義として海岸にいつどのくらいの量のごみがあるのか？が解れば研究や行政に役立つ情報になる。人工衛星や定点カメラの方法などがあるがハードルが高く、簡便な方法でモニタリングしていく必要がある。誰でも簡単にモニタリングするために世界中から統一的手法でデータが集まる仕組みを作る必要がある。海岸の写真をスマートフォンで撮影したデータをAIがごみの量を推定するなど、どのようなAIを使うかでハードルを下げるができるものと考えられる。

画像を分析するためのAIの技術としてセマンティックセグメンテーションがある。医療・自動運転で活用・応用されている画素単位でのセグメンテーション技術を海岸のごみを塗り分ける技術に活用している。

これは、空・建物を画素単位で分類してディープラーニングシアプローチする技術である。

AIの分類結果は、人間が作成した正解ラベルとの比較で判断されるが、自然由来のごみや白いプラスチックごみ、薄汚れたペットボトルなどのヒューマンエラーをAIでは正しく検出されている。数値の評価は、漂着物に対する検出精度が80%以上と十分なものとなっている。山形県の海岸では貝と見分けることもでき、長崎県では人工と塗り分けられる等、未知のデータにも使えるまでになっている。ドローンでの計測により誤差10%以内で海岸ごみの被覆面積率を推定することに成功している。

AIには大量の学習データが必要のため自治体の連携が必要になってくる。オリジナル画像としては、山形県の167地点・8年分のモニタリングのデータがあり、学習によりAI開発され既にマニュアル化されている。AI開発は、競い合って開発し世界へ公開していくことで、自治体のデータが学術の発展に寄与することになる。

横須賀市との連携による研究では、沿岸と河口に定点カメラを設置し、まちから海へどのようにごみが流出しているかフローの解明にAIデータを活用している。また、横須賀市では、一般を巻き込んだ市民参加型の教育イベントを通じたデータ収集の試みにも取り組んでいる。この他、ごみ拾いアプリ会社のピリカによるSNSアプリを通じたコメントのデータ収集・活用の事例もある。

現在、人工ごみの被覆面積率からプラスチックごみ総量の解明を進める取り組みに挑戦している。海ごみAIがもたらす波及効果として技術論文・データで

プラスチックごみ動態把握から広域シミュレーションを行い、モニタリング手法の実装につなげていくことがある。例えば、自治体がトラックをいつ何台出すかなど情報で政策決定、予算計画・執行により海岸や廃棄物の管理を行っていくことができる。横須賀市では、教育と次世代の人材育成の効果を期待している。

最後に市議会へ望むこととして、山形県の例にあるように、自治体の保有するデータを活用できる状態で保存することで新たな研究の展開が期待できる。デジタルトランスフォーメーション（DX）で管理するデータを新たな技術、研究開発に活用させられる可能性がある。

また、モニタリングのカメラ設置で管轄の問題により申請手続きが違うことで時間を要することがあった。手続きにパワーを使うと研究が1年間遅れる場合もあるので、学術連携の研究は簡単な手続きでスムーズにできる仕組みが必要である。

SDGsなど海岸ごみの問題は、世界共通の大きな環境問題であるが、海洋ごみ問題は地域で本質が違う場合がある。瀬戸内海はある特定業のごみであり、日本海は越境ごみである。地域ごとにカスタマイズ研究を引き継ぎ、連携して継続的に解決していくことが大切で特に教育が重要である。地元の特化した技術やアクション、科学的知識とリーダーシップで海洋研究をサポートしていくことが求められている。

- (2) 八戸市水産科学館マリエント「ちきゅう」たんけんクラブシニア会員の4名より活動報告の発表が行われた。内容は2007年はちのへ「ちきゅう」情報館オープンと「ちきゅう」たんけんクラブ発足の経緯や会員の推移、近年の活動内容に関するもので2022年5月に開催された地球科学分野で国内最大の学会であるJpGU（日本地球惑星科学連合）のオンライン大会で発表されたレポートの紹介もあった。具体的には洋野町にある「辰の口」という岬のジオサイトとしての適性や魅力についての調査や考察、ジオ紙芝居による昔話の紹介など三陸ジオパークの魅力在全国に発信するものであった。今後は地域振興の可能性を考慮し、新たなコンテンツの開発とジオサイト登録に向けた取り組みを続けていくという意欲のある発表であった。

## 7 所感

基調講演では、社会的課題となっている海洋ごみ問題、とりわけマイクロプラスチック等のプラスチックごみに関して調査・解析・データ公開に向けてAI技術の活用状況や先進的に取り組んでいる自治体とJAMSTECとの連携について学ぶことができ意義あるものとなった。当市の「海洋ごみ」においても「海岸ごみ」とも呼ばれる「海岸漂着物」による景観・安全・生物へ及ぼす影響が危惧されている。

令和3年度に回収した「海岸漂着物」は71トンと令和2年度比では3倍以上となっており、費用も年間1千万円以上となっている。国や県からの支援にも限りがある中で JAMSTEC の研究にもあるように海岸ごみのデータを AI 分析して、いつ・どのくらいの量のごみがあるのかを分析して効率的な回収を目指していくことや山形県・横須賀市等の地方自治体の取り組みは、とても示唆に富んだ内容であった。

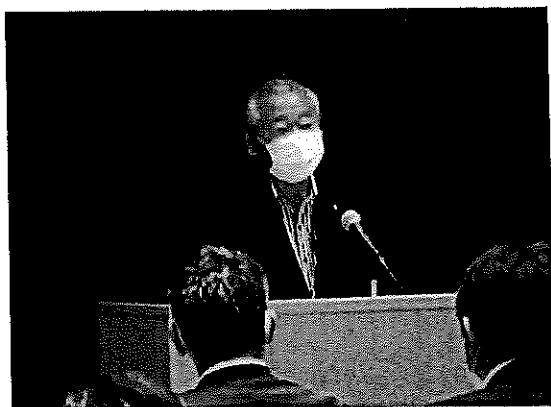
当市においても八戸商工会議所水産部会などの6団体は「八戸港版 SDGs 推進宣言」を発信して海洋ごみの回収に取り組んでいるが、今後は幅広い市民や NPO 等の関係団体との更なる連携強化が課題といえる。

日高氏の提言にあるように行政には、保有するデータを活用できる状態で保存していくことが求められており、他自治体の先進事例を参考に効率的な海岸ごみの回収と処理・リサイクルを期待するものである。

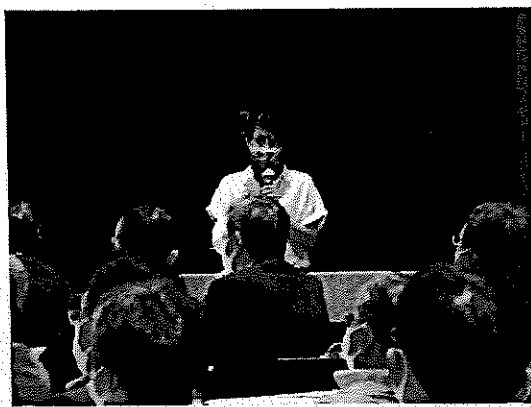
また、マリエント「ちきゅう」たんけんクラブの活動報告は、たいへん優れたもので、全国の研修会参加者からも称賛の声があがっていた。当市の誇りであり、今後も地域振興や活性化の可能性を追求し、引き続きクラブ活動の充実と会員メンバーの更なる活躍を期待したい。

本研修会を通して、地方の社会的課題解決へ向けた取り組みと教育や人材育成の重要性を改めて再認識する契機となった。地元の特化した技術、科学的な知見を深めるとともに次世代リーダーの育成をサポートしていくことも地方自治体や「我が国の海洋研究を推進する市議会議員連盟」の役割であることを再認識するものであった。今後、当市の新たな事業展開の推進に寄与できるよう具体的な提案につなげていきたい。

8 研修会写真



【坂本会長あいさつ】



【日高 弥子氏 基調講演】



【「ちきゅう」たんけんクラブ活動報告】



【研修会参加者の様子】

9 名刺


 国立研究開発法人 海洋研究開発機構  
 付加価値情報創造部門 (VAG)  
 地球情報科学技術センター (CEIST)  
 データサイエンス研究グループ

研 究 員 日 高 弥 子  
 博士(水産学) 鹿児島大学 特任准教授

情報研究所 仲喜川島情報研究会 大塚町 7-1175番25  
 〒236-0001 電話 (045) 778-5452 番  
 FAX (045) 778-5424 番  
 E-mail: mitsuko@jamstec.go.jp  
 URL: <https://www.jamstec.go.jp/>

この名刺は電子版を印刷しています。

## 研修報告書

1 日時

令和4年8月6日(土) 10:00~12:00

2 視察場所

海洋都市横浜うみ博2022 横浜市役所1階アトリウム

3 研修会

海洋都市横浜うみ博2022メイン会場視察

4 参加議員

五戸 定博、寺地 則行、高橋 貴之、吉田 洸龍  
※議長公務

5 研修目的

我が国の海洋地球科学研究開発の成果について関係機関に働きかけ、海洋地球科学の水準の向上及び当市を含めた加盟市の発展をはかるために設置された「我が国の海洋研究を推進する市議会議員連盟」の事業の一環として開催される研修会に参加し、情報の収集と理解を深め、当市の新たな事業展開の推進に資することを目的とする。

6 研修内容

横浜市では「開港都市」とともに「海洋都市」を掲げ、海洋に関する企業・団体で構成する「海洋都市横浜うみ協議会」を中心に、年の新たな魅力づくりを進めている。今年度は3年振りにリアル会場での開催となり、バーチャル会場も引き続き開催される。海に関わる研究機関や企業、大学などが海で活躍する船や生き物、環境などを紹介・展示し、海に関わる知識を動画やクイズなど、多様なコンテンツを通して楽しみながら学ぶことができるイベントとなっている。



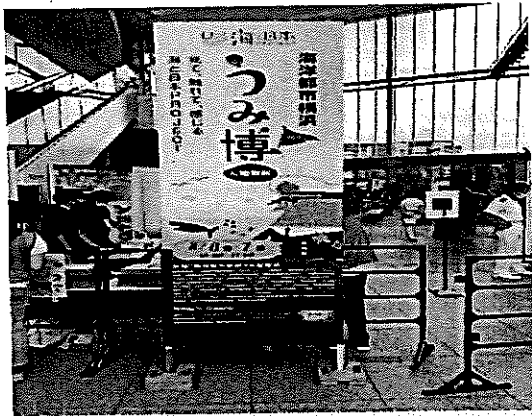


写真1) イベント会場

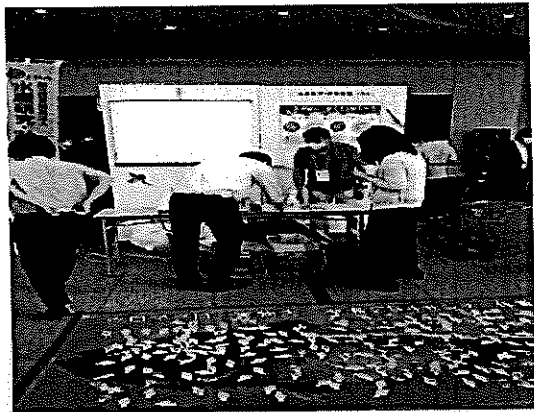


写真2) イベント会場



写真3) イベント会場

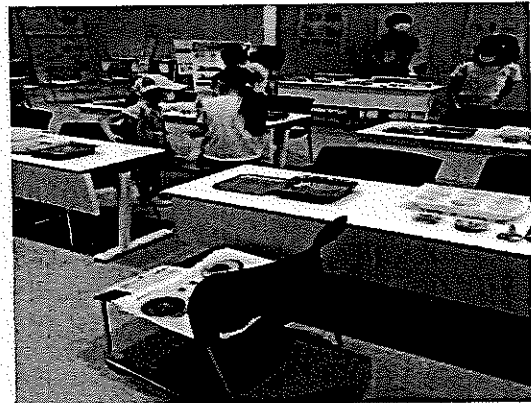


写真4) イベント会場



写真5) イベント会場



写真6) イベント会場



写真7) イベント会場



写真8) イベント会場



写真9) サブ会場

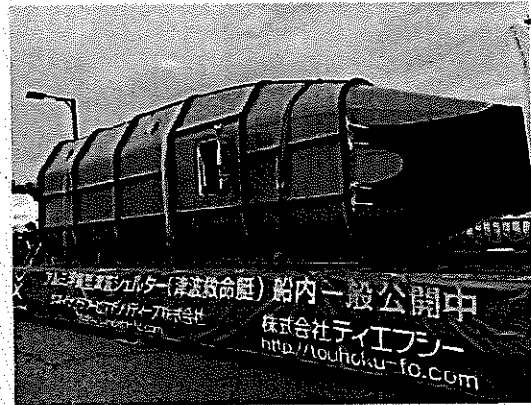


写真10) サブ会場

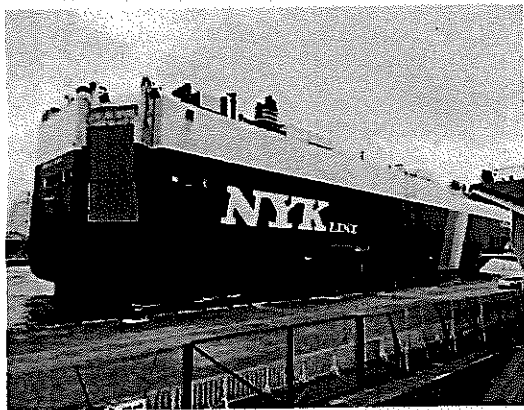


写真11) サブ会場



写真12) サブ会場

## 7 所見

今回の視察では「開港都市」でもあり「海洋都市」を掲げる横浜市の海洋に対する熱量、地元の子供達に対しての将来の海洋学者育成も兼ねた魅力発信、そして海洋に関わる企業や大学、研究機関の日頃の研究成果を体験することができ、非常に有意義な研修となった。この「うみ博」で特に素晴らしいと感じた部分は、企業や研究機関で仕事をする大人の方達が、海洋に関する複雑な知識をクイズや動画などの多様なコンテンツを使って、地元の子供達に対して楽しみながら海洋に関しての学びの場を提供している点である。実際に展示ブースでは各企業や大学の研究成果をわかりやすく説明を行ったり、遊びの要素も含めた展示品が数多くあったということもあって非常に賑わっていた。今回のうみ博では、展示品だけではなくワークショップ形式で、実際にコンテナ船のペーパークラフト体験や海藻おしぼづくりなど、体験型のブースもたくさんあったため子供たちが飽きることなく海洋に関する体験を行うことができていた。また、夏休み期間中ということもあって親子連れで各種イベントやクイズ、模型づくりを体験しているのがとても印象的であり、親子で夏休みの思い出づくりも兼ねながら、海洋都市横浜の魅力を感じることができ、非常に良いイベントであると感じた。サブ会場においては普段見ることのできない津波救命艇や水難救助車など、説明員の詳しい説明を聞きながら実際の現場で活躍している機材を知ることができた。大さん橋埠頭においては自動車専用船や消防艇など、とても迫力ある船舶の見学もすることができ、子供たちにとっては夏休みの一大イベントにもなる良い時間となったのではないかとと思われる。

今回の海洋都市横浜うみ博2022のように、親子で楽しめる海洋研究イベントは、将来の海洋学者育成に非常にプラスとなると思われ、当市の課題でもある漁業に関する後継者育成にも活かすことができるのではないかと感じることもできた。今回の研修で感じたこと、学んだことを今後の当市の海洋に関する取り組みにも生かしつつ、実際にフィードバックできそうな取り組みは積極的にフィードバックできるよう提言していきたい。

第3号様式（第6条、第8条関係）

令和4年9月27日

会派名 きずなクラブ  
代表者名 五戸定博 様

氏 名 五戸定博



### 調査視察等届出書

八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により、次のとおり届出します。

- 1 旅行者 五戸定博 議員
- 2 期 間 令和4年10月18日（火）～令和4年10月19日（水）
- 3 場 所 北海道 函館市
- 4 目的及び内容 函館国際水産・海洋都市構想について
- 5 支出可能額（上限額） 42,560円  
【内訳は、旅費額計算書（第4号様式）に記載のとおり】

第4号様式 (第6条、第8条関係)

旅費額計算書

旅行日程			旅費計算の基礎							
行	10/18	本八戸駅発 12:46	区分	基数	単価	金額	備考			
き	10/18	函館駅着 15:28	早見表							
帰	10/19	函館駅発 13:07								
	10/19	本八戸駅着 15:21								
経路・滞在地  10/18 (火) 12:46 本八戸駅発(八戸線) 12:56 八戸駅着 13:34 八戸駅発(はやぶさ19) 15:01 新函館北斗着 15:11 新函館北斗発 (JR快速はこだてライナー) 15:28 函館駅着 (函館市内泊)  10/19 (水) 9:30~11:30 函館市役所 (函館国際水産・海洋都市構想に ついて) 13:07 函館駅着 (JR快速はこだてライナー) 13:29 新函館北斗着 13:39 新函館北斗発(はやぶさ32) 15:05 八戸駅着 15:13 八戸駅発(八戸線) 15:21 本八戸駅着			鉄道運賃	254.6k	5,060	10,120	本八戸⇄函館			
				k						
				k						
			急 行 料 金	特	2	5,870	11,740	八戸⇄新函館北斗 230.6k		
					急					
			特別車両 料 金		2	4,100	8,200	八戸⇄新函館北斗 230.6k		
			船運賃							
			航空運賃							
			バス運賃							
			宿泊料	1	12,500	12,500	10/18 函館市泊			
			小計						42,560	
			合計(小計×人数)						42,560	1名

令和4年10月21日

会派名 きずなクラブ  
代表者名 五戸定博様

氏名 五戸定博



### 調査視察等報告書

令和4年9月27日付けで届出した調査視察等を実施したので、八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により次のとおり報告します。

- 1 旅行者 五戸定博 議員
- 2 期間 令和4年10月18日(火)～令和4年10月19日(水)
- 3 場所 北海道 函館市
- 4 行程 別紙のとおり
- 5 支出額 27,270円
- 6 概要 別紙のとおり

## 政務活動調査視察行程表

日程：令和4年10月18日（火）～10月19日（水）

視察先：函館市

【五戸議員】

月日	行 程	宿泊地
10月18日 (火)	12:46発 本八戸 → (JR八戸線) → 12:56着/13:34発 八戸 → (はやぶさ19号) → 新函館北斗 → (JR快速はこだてライナー) → 函館 → (徒歩) → ホテル 15:01着/15:11発 15:28着/15:30発 15:35着	函館市内泊
10月19日 (水)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                         函館市役所 (9:30～11:30)                          ・函館国際水産・海洋都市構想について (函館市企画部 国際水産・海洋都市推進室)                     </div> 9:10発 ホテル → 9:20着/11:50発 函館市役所 → 12:00着/13:07発 函館 → (JRはこだてライナー) → 新函館北斗 13:29着/13:39発 15:05着/15:13発 → (はやぶさ32号) → 八戸 → (JR八戸線) → 本八戸	

領 収 書 等 貼 付 用 紙

項 目	研修費	費 目	旅費	整理番号	3-1
領 収 書 等 貼 付 欄					

領 収 証

2022年10月14日

五戸定博 様

金16,200円

印 紙 税 申 告 納
付 に つ き 波 谷
税 務 署 承 認 済

ただし、乗車券類代  
(クレジットカードによるご利用分)として、上記金額を受領しました。

本領収証は時間がたつと文字が薄くなる場合がありますので、  
長期間保存する場合はコピーをお取り下さい。

東日本旅客鉄道株式会社  
本八戸801 No.000006

研 10月18日  
シヤムスツク ハコダテ

※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。





## 領収書 / Payment Receipt

お部屋番号 / Room No. 1015

宿泊者名 : 五戸 定博 様

請求番号 / Folio No.

ページ番号 / Page

1 of 1

人数 / Person

1

ご到着日 / Arrival

10-18-22

ご出発日 / Departure

10-19-22

担当者 / Cashier



日付 / Date	ご請求内容 / Description	詳細 / Detail	料金 / Charge	支払 / Payment
10-18-22	現金			11,070
10-18-22	ご宿泊代		11,070	
合計 / Total JPY			11,070	11,070
			(内消費税額	992 円)
残高 / Balance JPY			0	

上記金額正に領収いたしました。



ありがとうございました。またのご利用をお待ち申し上げます。  
 Thank you very much for staying with us. We look forward to the pleasure of serving you again.

## 調査結果概要

- 視 察 先 函館市
- 日 時 令和4年10月19日(水) 9:30~11:30
- 対 応 者 企画部 国際水産・海洋都市推進室  
室長 阿 部 慶 太 様  
主査 岸 元 祐 二 様

- 調査事項 函館国際水産・海洋都市構想について

### 1 函館市について

- 人口：24万5,213人(令和4年9月末日)
- 北海道と本州を結ぶ交通の要衝
- 良港に恵まれた港町
- 道南地域の中心都市
- 3つの優位性
  - (1) 暖流・寒流が流れ込み優良な漁場を形成
  - (2) 大学をはじめとする学術研究機関が数多く立地
  - (3) 水産・海洋に関する様々な関連産業が集積

### 2 函館国際水産・海洋都市構想とは

- 平成15年3月に地域の産学官により策定
- 地域の優位性を生かしたまちづくり構想
- 主要施策
  - (1) 水産・海洋に関する学術研究機関の集積
    - ・ 学会誘致
    - ・ 函館市国際水産・海洋総合研究センター  
産学官の学術研究機関や企業などが水産・海洋分野の研究開発を行うため入居している。
  - (2) 地域と学術研究機関の連携
    - ・ 函館マリンバイオクラスター形成事業
    - ・ イカ資源評価と予測に関する講演会
    - ・ 共同研究・受託研究事業
  - (3) 観光と学術研究の融合

- ・イカマイスター養成事業（講習会，認定試験）
- ・函館市臨海研究所の整備  
函館の歴史的建造物である旧函館西警察署庁舎を水産・海洋関連産業の技術の高度化や水産振興に貢献する研究施設「臨海研究所」として再整備。

#### （４）水産・海洋と市民生活の調和

- ・まちかどデジタル水族館
- ・函館マリンフェスティバル 2019
- ・学習旅行，研修等の受け入れ
- ・新水産・海洋都市はこだてを支える人材養成事業

- 国際的な水産・海洋に関する学術研究拠点都市を形成  
⇒新産業・雇用の創出，産業・経済の活性化

- 構想の推進母体となる「一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構」設立

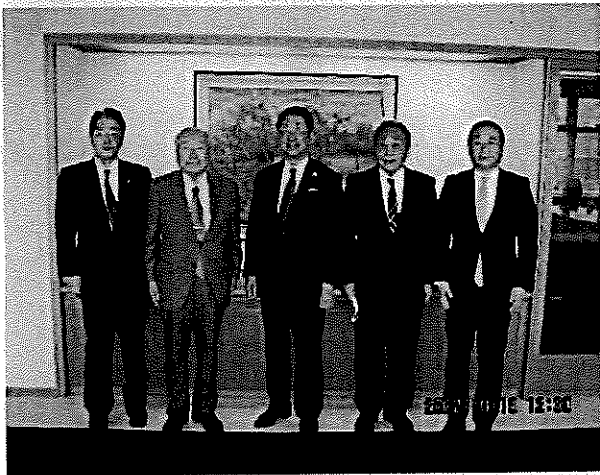
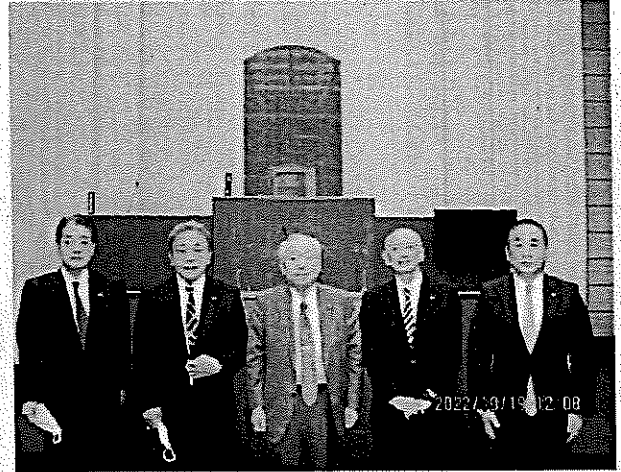
### 3 所 感

恵まれた地理的・自然条件を有する函館市は多くの学術研究機関が集積している。この構想の基本理念については、それらの優位性をさらに前進させ、学術研究拠点都市の形成を目指すとともに、雇用の創出と産業経済の活性化を目的とするものである。

今回の視察において改めて感じたことは、気候温暖化等に鑑み、大幅な漁獲量の減少や漁場の変化などにより水産業全般が大きな変革期に直面している今日、JAMSTECをはじめとする研究機関や民間事業者との多岐にわたる連携の必要性と、それらと行政との関わり方について十分検討する必要性が急務であると感じたところである。函館市と八戸市は人口規模や産業構造においては多くの類似点を有しているものの、加工に係る冷凍イカの多くが八戸からの原料提供によるものであるが、特に水産加工品の開発、研究の在り方については、函館市の取組手法を参考にすべき点が多々あるものと認識した。全国的に捕る漁業から育てる漁業への転換が求められる昨今において、17事業所が入所する「函館市国際水産・海洋総合研究センター」における研究成果を礎にした官民一体的な連携体制が函館市の水産加工業の大きな支えになっているものと感じる。また、市職員には約100名の北大卒業生がおり、うち50名が水産学部出身者ということから、各関連団体や研究機関において専門分野に際しても連携がとりやすい状況にあることもプラス効果の要因にあると考えられる。

以上のことを踏まえ、今後の八戸市の水産業の方向性として、育てる漁業いわゆる陸上養殖の可能性や原材料の提供から直接加工への新たな可能性に向け、研究機関整備の必要性とともに、他都市との連携を強化することについて、市長の政策公約である水産アカデミーにおいて議論を深めていくことに期待するものである。

以上



*Hellor*  
 HAKODATE

函館市国際水産・海洋都市推進室  
函館市企画部企画管理課

主査 岸 元 祐 二

〒040-8666 北海道函館市東雲町4番13号 TEL 0138-21-3618 FAX 0138-23-7604  
E-mail kishimoto.yuji@city.hakodate.hokkaido.jp

函館市企画部次長  
函館市国際水産・海洋都市推進室長



阿 部 慶 太

〒040-8666 北海道函館市東雲町4番13号  
TEL(0138)21-3615 FAX(0138)23-7604  
E-mail : abe@city.hakodate.hokkaido.jp

函館市議会事務局



次 長 宮 田 至

〒040-8666 北海道函館市東雲町4番13号  
TEL(0138)21-3752 FAX(0138)27-4185  
E-mail : gikai@city.hakodate.hokkaido.jp



工藤 壽樹

函館市長

〒040-1866  
函館市東雲町四番十三号  
電話(0138)213600



副議長  
道畑 克雄  
函館市議会

函館市東雲町四番十三号  
電話(0138)213750  
FAX(0138)271418

第3号様式 (第6条、第8条関係)

令和5年1月5日

会派名 きずなクラブ  
代表者名 五戸定博様

氏名 五戸定博  
寺地則行



調査視察等届出書

八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により、次のとおり届出します。

- 1 旅行者 五戸定博議員  
寺地則行議員
- 2 期間 令和5年1月26日(木)～令和5年1月27日(金)
- 3 場所 東京都区内
- 4 目的及び内容 「我が国の海洋研究を推進する市議会議員連盟」勉強会
- 5 支出可能額(上限額) 110,860円  
【内訳は、旅費額計算書(第4号様式)に記載のとおり】

第4号様式 (第6条、第8条関係)

旅 費 額 計 算 書

旅 行 日 程			旅 費 計 算 の 基 礎					
行	日	時刻	区 分	基 数	単 価	金 額	備 考	
行	1/26	本八戸駅発 12:46	早見表					
	1/26	東京駅着 16:04						
帰	1/27	東京駅発 13:20						
	1/27	本八戸駅着 16:30						
経路・滞在地  別紙のとおり			鉄道運賃	638.0k	9,790	17,620	本八戸⇄東京 (往復割引)	
			急 行 料 金	特	2	6,270	12,540	八戸⇄東京 631.9k
				急				
			特別車両 料 金	2	5,600	11,200	八戸⇄東京 631.9k	
			航空運賃					
			バス運賃					
			宿泊料	1	13,900	13,900	1/26 東京都区内泊	
			旅行雑費					
			東京トコ	1	170	170	国会議事堂前→東京	
			小 計					
合 計 (小計×人数)						110,860	2人	



「我が国の海洋研究を推進する市議会議員連盟」役員会・勉強会・懇談会 行程

- ・ 日 程：令和5年1月26日（木）～27日（金）
- ・ 場 所：東京都内
- ・ 出席者：寺地議長、五戸議員

月 日	行 程	宿泊地
1月26日  (木)	12:46発 本八戸 → (JR八戸線) → 八戸 → (はやぶさ24号) → 東京 12:56着/13:07発 16:04着/16:14発 → (JR京浜東北・根岸線) → 16:18着/16:22発 新橋 → (徒歩) → 16:30着/17:00～20:00 役員会・懇談会	東京都内泊
1月27日  (金)	9:30発 ホテル → (徒歩) → 9:40着/10:00～10:45/10:50発 JAMSTEC東京事務所 → (タクシー) (勉強会) 11:05着/11:15～12:00/12:05発 → 文部科学省 → (徒歩) → 12:15着/12:22発 国会議事堂前 → (東京メトロ丸ノ内線) (勉強会) 12:28着/13:20発 → 東京 → (はやぶさ25号) → 16:13着/16:22発 八戸 → 16:30着 本八戸	

令和5年1月31日

会派名 きずなクラブ  
代表者名 五戸定博様

氏名 五戸定博  
寺地則行



### 調査視察等報告書

令和5年1月16日付けで届出した調査視察等を実施したので、八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により次のとおり報告します。

- |       |                           |
|-------|---------------------------|
| 1 旅行者 | 五戸定博 議員<br>寺地則行 議員        |
| 2 期間  | 令和5年1月26日(木)～令和5年1月27日(金) |
| 3 場所  | 東京都区内                     |
| 4 行程  | 別紙のとおり                    |
| 5 支出額 | 77,440円                   |
| 6 概要  | 別紙のとおり                    |

「我が国の海洋研究を推進する市議会議員連盟」役員会・勉強会・懇談会 行程

- ・ 日 程：令和5年1月26日（木）～27日（金）
- ・ 場 所：東京都内
- ・ 出席者：寺地議長、五戸議員

月日	行 程	宿泊地
1月26日  (木)	12:46発 本八戸 → (JR八戸線) → 12:56着/13:07発 八戸 → (はやぶさ24号) → 16:04着/16:14発 東京  → (JR京浜東北・根岸線) → 16:18着/16:22発 新橋 → (徒歩) → 16:30着/17:00～20:00 役員会・懇談会	東京都内泊
1月27日  (金)	9:30発 ホテル → (徒歩) → 9:40着/10:00～10:45/10:50発 JAMSTEC東京事務所 → (タクシー) (勉強会)  11:05着/11:15～12:00/12:05発 → 文部科学省 → (徒歩) → 12:15着/12:22発 (勉強会) → 国会議事堂前 → (東京メトロ丸ノ内線)  12:28着/13:20発 → 東京 → (はやぶさ25号) → 16:13着/16:22発 八戸 → 16:30着 本八戸	

領 収 書 等 貼 付 用 紙

項 目	研修費	費 目	旅費	整理番号	4-1
領 収 書 等 貼 付 欄					

領 収 証

2023年 1月12日

五戸定博 様

金28,920円

ただし、乗車券類代  
(クレジットカードによるご利用分)として、上記金額を受領しました。

印 紙 税 申 告 納 付 に つ き 渋谷 税 務 署 承 認 済
--

本領収証は時間がたつと文字が薄くなる場合がありますので、  
長期間保存する場合はコピーをお取り下さい。

東日本旅客鉄道株式会社  
本八戸802 No.000014



425シク 1月26日

※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

領 収 書 等 貼 付 用 紙

項目	研修費	費目	旅費	整理番号		
4-1						
領 収 書 等 貼 付 欄						
<p>シヤリステック</p> <p><b>APA HOTELS &amp; RESORTS</b></p> <p><b>領 収 書</b></p> <p>五戸定博 様</p> <p>領収金額 ¥13,410</p> <hr/> <p>(内消費税等 ¥1,210) (宿泊税 ¥100)</p> <p>クレジットカードにて13,410円 領収いたしました。</p> <p>10%対象 ¥13,410 消費税 ¥1,210</p> <p>アバホテル〈新橋 虎ノ門〉 TEL 03-3500-1155</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">                 印紙税申告納 付につき麻布 税務署承認済             </td> <td style="width: 50%;">                 アバホテル株式会社 作成地 東京都港区赤坂3丁目2-3             </td> </tr> </table> <p>取引番号: 021001C012614371 2023/01/26 19:47</p> <hr/> <p><b>お部屋番号: 604</b></p> <p>お名前 : コノヘサダヒロ様 ご人数 : 1 宿泊期間 : 2023/01/26 - 2023/01/27</p> <hr/> <p style="text-align: center;">クレジットカードご利用明細</p> <p>カード種別: IC                      取引内容: 売上 支払区分: 一括                      処理番号: 7422 カード会社: UFJ NICOS              有効期限: XX/XX 会員番号: ██████████ 決済方法: クレジットカード決済 A I D : A0000000031010 A T C : 0006                      カド「ケ」番号: 1 製造番号: 000302201108236 結果コード: 000 お支払総計: ¥13,410                  取引 I D : 03gzTh</p>					印紙税申告納 付につき麻布 税務署承認済	アバホテル株式会社 作成地 東京都港区赤坂3丁目2-3
印紙税申告納 付につき麻布 税務署承認済	アバホテル株式会社 作成地 東京都港区赤坂3丁目2-3					

※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

領収書等貼付用紙

項目	研修費	費目	旅費	整理番号	4-2
領収書等貼付欄					

領 収 証

2023年 1月13日

寺地則行 様

金21,700円

ただし、乗車券類代  
(クレジットカードによるご利用分)として、上記金額を受領しました。

印紙税申告納 付につき渋谷 税務署承認済
----------------------------


本領収証は時間がたつと文字が薄くなる場合がありますので、  
長期間保存する場合はコピーをお取り下さい。

東日本旅客鉄道株式会社  
本八戸801 No.000008



※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

領収書等貼付用紙

項目	研修費	費目	旅費	整理番号	4-2
領収書等貼付欄					
 <b>APA HOTELS &amp; RESORTS</b> <b>領収書</b> 寺地則行 様 領収金額 <span style="float:right;">¥13,410</span>					
(内消費税等 ¥1,210) (宿泊税 ¥100) クレジットカードにて13,410円 領収いたしました。					
10%対象      ¥13,410    消費税    ¥1,210					
アパホテル〈新橋 虎ノ門〉 TEL 03-3500-1155					
印紙税申告納 付につき麻布 税務署承認済		アパホテル株式会社 作成地 東京都港区赤坂3丁目2-3			
取引番号: 021001C012614372    2023/01/26 19:50					
<b>お部屋番号: 606</b>					
お名前 : テラチノリュキ様 ご人数 : 1 宿泊期間 : 2023/01/26 - 2023/01/27					
クレジットカードご利用明細					
カード種別: IC 支払区分: 一括 カード会社: JCB 会員番号: ██████████		取引内容: 売上 処理番号: 7423 有効期限: XX/XX			
決済方法: クレジットカード決済 A I D : A0000000651010 A T C : 003C      カードワークス番号: 0 製造番号: 000302201108236    結果コード: 000 お支払総計: ¥13,410      取引 I D : 03gzVc					

※ 領収書等の原本は、用紙に重ならないように貼り付けること。

## 調査結果概要

## ● 視察先

- 1 国立研究開発法人 海洋研究開発機構 東京事務所  
東京都千代田区内幸町 2-2-2 富国生命ビル 23 階
- 2 文部科学省 研究開発局 東京都千代田区霞が関 3-2-2

## ● 日 時 令和 5 年 1 月 27 日 (金)

- 1 国立研究開発法人 海洋研究開発機構 東京事務所  
10:00~10:45
- 2 文部科学省 11:15~12:00

## ● 対応者

- 1 国立研究開発法人 海洋研究開発機構

大 和 裕 幸	理事長
倉 本 真 一	理事
菊 池 聰	監事
海洋科学技術戦略部 亀 井 雅 彦	部長
総務部 廣 瀬 重 之	調査役

- 2 文部科学省 研究開発局

海洋地球課

千 原 由 幸	局長
山之内 裕 哉	課長
伊 藤 有佳子	課長補佐
小 林 寛 和	総括係長

## ● 調査事項

- 1 国立研究開発法人 海洋研究開発機構

- ・ J A M S T E C 概要説明
- ・ 地球深部探査船「ちきゅう」の近況  
～レアアース泥採鉱装置による海底堆積物揚泥試験の成功について～

## ○ 概 要 (資料を用いて下記について説明)

- ① 深海に堆積するレアアース泥採鉱を可能にする技術を開発し、水深 2,470m の地点における実海域試験を実施し、海底堆積物の揚泥に世界で初めて成功した。
- ② 当該試験で用いた採鉱装置は南鳥島海域水深約 6,000m の海底下に賦存すること



が確認されている「レアアース泥」を採鉱することを念頭に設計されており、今後残りの3,000m分のパイプを追加することで南鳥島沖におけるレアアース泥採鉱への道が拓かれる。

- ③ 採鉱試験に際して、我が国が提案して発行された国際標準（ISO）規格に則り、「江戸っ子1号」などを使用して環境モニタリングを実施し、その実用性を実証した。

## 2 文部科学省

・文部科学省における海洋・極域分野の研究開発について

### ○ 概要（資料を用いて下記について説明）

#### ① 海洋・極域分野の研究開発に関する取組（全体像）

海洋科学技術が、地球環境問題をはじめ、災害への対応を含めた安全・安心の確保、資源開発、経済安全保障の確保といった我が国が直面する課題と密接な関連があることを踏まえ、関係省庁や研究機関、産業界等と連携を図りながら、海洋・極域分野の研究開発に関する取組を推進。

#### ② 地球環境の状況把握と観測データによる付加価値情報の創生

気候変動等の影響により相次ぐ気象災害や、カーボンニュートラル施策に伴う温室効果ガス排出量の変化等、現象が起こるメカニズムを理解し予測していくための「鍵」となる海洋観測データの収集・拡充は不可欠だが、より精緻な異常気象の予測等に必要となるデータは不足。より広域かつ効率的な海洋観測を実施していくことが必要。

また、取得した海洋データを活用し、気候変動・気象災害等の予測をはじめとした、社会ニーズに即した付加価値情報を創生することで、我が国の社会課題解決に貢献。

#### ③ 海洋科学技術の発展による国民の安全・安心への貢献

海域地震・火山に関する研究開発や、海洋資源に関する研究開発、無人観測機器等の海洋観測機器の研究開発など、海洋科学技術は、国民の安全・安心に直結する研究分野。四方を海に囲まれた海洋国家である我が国として、その発展に取り組んでいくことは非常に重要。

国土強靱化やエネルギー問題、経済安全保障の確保など、我が国が抱える社会課題に対し、最先端の海洋科学技術によって貢献していくため、必要な研究開発を進めていくことが重要。

#### ④ 北極域研究の戦略的推進

北極域は、海氷の急激な減少をはじめ地球温暖化の影響が最も顕著に現れている地域である。北極域の環境変動は単に北極圏国のみの問題に留まらず、台風や豪雪等の異常気象の発生など、我が国を含めた非北極圏国にも影響を与える全地球的な課題となっているが、その環境変動のメカニズムに関する科学的知見は不十分。

その一方で、北極域における海氷の減少により、北極海航路の活用など、北極域の利活用の機運が高まっているほか、北極域に関する国際的なルール作りに関する議論が活発に行われており、社会実装を見据えた科学的知見の充実・研究基盤の強化が必要である。

#### ⑤ 南極地域観測事業

地球規模の気候変動システムを理解し、将来の気候を高精度で予測することは大きな社会的要請である。そのため、地球規模の気候変動解明の鍵であるとされる南極地域における精密観測により、現在進行している温暖化等の環境変動シグナル及びその影響の定量的な把握が強く求められている。

### 3 所 感

本勉強会を通じて改めて JAMSTEC の活動についてはその必要性和意義について一層理解を深め、JAMSTEC の活躍を本議連がしっかりと支えていくことと、JAMSTEC が今後の調査・研究を進めるに際しては、本議連との一層の連携が必要であることについて参加者一同確認できたものと推測する。

また、説明の中で産業界や行政との係わりは多岐にわたるものの、今後は国会議員や地域との連携について検討していきたい。さらには、地域が JAMSTEC の活動をどのように捉えているのか、何を期待しているのか、地域の声を受け止め一緒に前進していきたいとの説明があったことから、今後において本議連の果たす役割と責任は大きく、本日はその観点からも貴重な場であったと考える。

今後は議連としても JAMSTEC 側双方において、「議連参加市選出」の国会議員との相互連携を促すとともに一層強固なものとするべく、関係市議会が知恵を出し合い、それぞれの市が有する関連施設の利活用を地域とともに進めていくことが重要であると考える。

また、世界的な気候変動問題や環境問題等についてもこの活動が下支えしているという認識のもとに同様な視点に寄り添いながら、市民に身近に感じていただける活動を目指していきたい。

当市では全国議連発足の礎である静岡市との交流を一層強固なものとし、本議連を牽引する役割も果たしていかねばならないとも感じたところである。

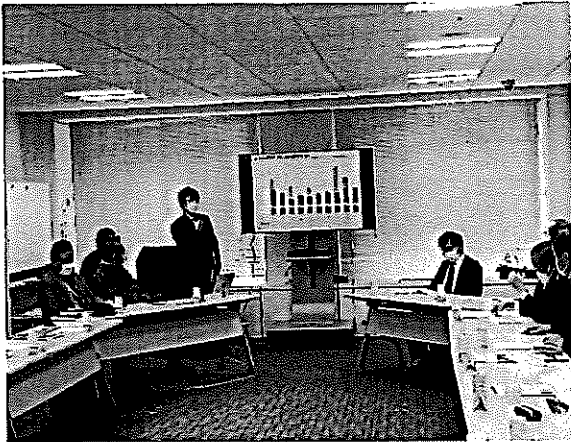
また、改めてマリエントにおける「ちきゅう」たんけんクラブの活動をしっかり支援して参りたいと考える。

以上

●1/27 JAMSTEC との勉強会/JAMSTEC 東京事務所

- ・JAMSTEC 概要説明 国立研究開発法人 海洋開発機構 経営企画部長 井出太郎氏
- ・地球深部探査船「ちきゅう」の近況 レアアース泥採鉱装置による海底堆積物揚泥試験の成功について

国立研究開発法人 海洋開発機構 理事 倉本真一氏



井出経営企画部部長より概要説明



倉本理事より講演



概要説明及び講演①



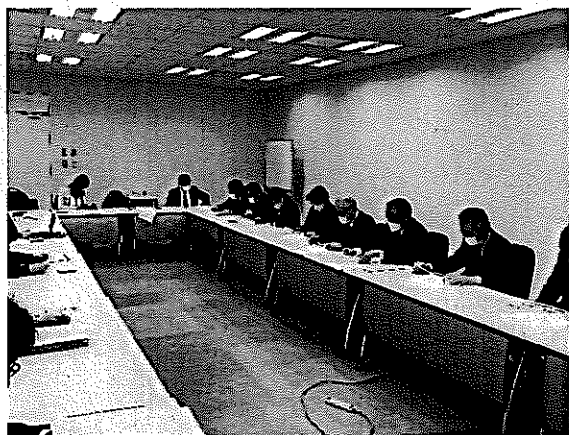
同②

●文部科学省における海洋・極域分野の研究開発について

文部科学省 研究開発局 海洋地球課長 山之内裕哉氏



山之内課長の説明①



同②



国立研究開発法人 海洋研究開発機構

理事長

工学博士 大 和 裕 幸

横須賀本部  
〒237-0061 神奈川県横須賀市夏島町2番地15  
電話 (046) 867-9000番(秘書室)  
FAX (046) 867-9005番  
E-mail: yamato@jamstec.go.jp  
URL: https://www.jamstec.go.jp/

この名刺は再生紙を使用しています。



国立研究開発法人 海洋研究開発機構

理事  
理学博士

倉 本 真 一



横須賀本部  
〒237-0061  
神奈川県横須賀市夏島町2番地15  
電話 (046) 867-9000番(秘書室)  
FAX (046) 867-9005番  
E-mail: s.kuramoto@jamstec.go.jp  
URL: http://www.jamstec.go.jp/

東京事務所  
〒100-0011  
東京都千代田区内幸町2丁目2番2号  
(富国生命ビル23階)  
電話 (03) 5157-3900番(代表)  
FAX (03) 5157-3903番  
この名刺は再生紙を使用しています。



国立研究開発法人 海洋研究開発機構

監 事 菊 池 聰

横須賀本部  
〒237-0061  
神奈川県横須賀市夏島町2番地15  
電話 (046) 867-9000(秘書室)  
FAX (046) 867-9005  
E-mail: kikuchis@jamstec.go.jp  
URL: https://www.jamstec.go.jp/j/

東京事務所  
〒100-0011  
東京都千代田区内幸町2丁目2番2号  
(富国生命ビル23階)  
電話 (03) 5157-3900  
FAX (03) 5157-3903  
この名刺は再生紙を使用しています。



国立研究開発法人 海洋研究開発機構

総務部

調 査 役 廣 瀬 重 之

横須賀本部  
〒237-0061 神奈川県横須賀市夏島町2番地15  
電話 (046) 867-9038番(直通)  
FAX (046) 867-9025番  
E-mail: hiroses@jamstec.go.jp  
URL: http://www.jamstec.go.jp/

この名刺は再生紙を使用しています。



国立研究開発法人 海洋研究開発機構

海洋科学技術戦略部

部 長 亀 井 雅 彦

横浜研究所  
〒236-0001 神奈川県横浜市金沢区昭和町3173番25  
電話 (045) 778-5800番(直通)  
E-mail: kameim@jamstec.go.jp  
URL: https://www.jamstec.go.jp/j/

この名刺は再生紙を使用しています。



文部科学省  
〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2  
電話 03-6734-4142  
E-mail: chihara@mext.go.jp

千原 由幸

研究開発局長



文部科学省

海洋地球課長

山之内 裕哉

文部科学省 研究開発局  
〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2  
TEL: 03-6734-4142  
FAX: 03-6734-4147  
E-mail: hyamanou@mext.go.jp



文部科学省

文部科学省  
研究開発局 海洋地球課

課長補佐 伊藤 有佳子

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2  
TEL: 03-5253-4111 [内線4455]  
03-6734-4142 [直通]  
080-4926-7186 [公用携帯]  
E-mail: yito@mext.go.jp



文部科学省

文部科学省  
研究開発局 海洋地球課

総括係長 小林 寛和



〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2  
TEL: 03-6734-4142 [直通]  
080-4321-3761 [公用携帯]  
E-mail: hkobayoshi@mext.go.jp



静岡市

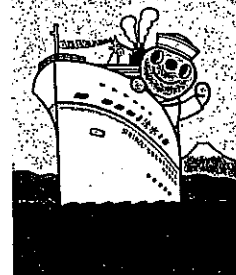
経済局 海洋文化都市推進部  
海洋文化都市政策課  
課長補佐兼  
海洋ミュージアム建設室長

渡邊 賢

Watanabe Satoshi

〒424-8701  
静岡市清水区旭町6番8号  
TEL 054-354-2661  
FAX 054-353-1022  
E-mail: watanabe\_bs@city.shizuoka.lg.jp

清水区広報キャラクター シズラ



©清水区